看護奨学生が戦跡に遠足 身近にあった戦争にふれました

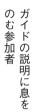
軍工廠平和公園を訪れま 模の兵器工場があった跡 生と職員の9名で豊川海 た。かつて日本最大規 9月20日、 看護の奨学

きる貴重な場です。 地に整備された公園で、 戦争遺跡を実際に見学で

子をまとめた動画を視聴 当日はまず、当時の様

第三信管置き場として兵 らしい外観の建物も、 案内で園内を巡りまし し、その後ガイドの方の た。レトロで一見かわい 旧

た。また、火薬庫の 知ることができまし たときの被害を最小 具体的に見ることが されていたのかなど 限にする工夫などを 中やどのように管理



り当てられた子が空襲の 際にそこへ逃げ込む不安 蓋(ふた)のない壕に割 防空壕の見学でした。掩 特に心に残ったのは、

できました。

ました。 遠い世界の出来事だと 参加者からは「戦争は

もや家族の日常をも奪っ されており、 父母に宛てた遺書も紹介 ていった現実を深く感じ は13才の少女の日記や、 戦争が子ど

思っていたが、愛知の地

想像し、胸が締め付けら

れる思いでした。展示で

はどれほどであったかと

戦争の悲惨さを次世代に 尊さを改めて実感した」 ことに驚いた」「平和の した。今回の遠足を通じ、 という感想が寄せられま でも多くの犠牲があった 語り継ぐことの大切さを

例えば、「検査

の結果、

景によって異なる価値観

にあ

れることができ、患

過程を疑似体験します。 われたりと、死に向かう のや人を手放し

たり、奪

回答。それ以外の回答で

のほとんどが「家族」と

も各々の思いや経験、背

師長室 沢田

美名

後は死を迎えます。

ゲーム終了後、他人の

枚ずつ計5枚手放しま た。5色のカードから1 脳腫瘍が発見されまし

す」などを繰り返し、最

改めて深く考える機会に

なりました。

者さんが大切にしている

ことがなぜ大切なのか、

25枚が配られます。

そし

カードを捨てた

時、捨て

学びました。

大切なものを失うこととは

器を取り扱っていた

施設であり、爆発し

よってこれからどう生き ものは何か? 似体験」を行ないました。 ムを使って疑似体験しま 死の疑似体験とは、人生 す。自分にとって大事な る選択肢を、カードゲー の最期を迎えるまでにす 看護師研修で「死の疑 それに

目標としました。

カードは5色あり、

た際に「お互い置かれて 換をする機会としていま いる状況は違うが、家族 不安を話し合い、 参加者で意見交換をし

原水爆禁止世界大会に

いただきました。

を聞いてもらえてよかっ て安心しました」「お話 と話があり、思いを共有 加者からは「お話ができ する場となりました。参 を思う気持ちは一緒だ」 た」などの感想がありま

ました。窒息・誤嚥の違 と応急の基礎知識」のテ 庭介護におけるトラブル 大学より講師を招き、「家 ーマでセミナーを開催し 第二部では、 日本福祉

傷など家庭で発生しやす いについて、熱中症、 例を提示しながら講義し ぶタイミングについて、 いのか、また救急車を呼 ように初期対応するとよ ていただきました。 経験談を交えて具体的な いトラブルに対してどの

事なことが分かった。煙 をいただきました。 切だと分かった」と感想 かった」「応急処置が大 しずつ水を飲むことが大 解できた」「熱中症は少 なケースで分かりやす の火傷の怖さについて理

参加者からは、「身近 報告会とは別に、ケアハ ごろからお世話になって 参加する私のために、日 礼を兼ねて、8月19日の の方々から、多くのカン ウス内でも報告をさせて パをいただきました。お いるケアハウスの入居者

学で家庭介護教室(ハー

ています。

9月18日、

一宮研伸大

機会を目的に毎年開催し

トフルケアセミナー

介護者の交流と学びの場に

する知識や技術を学び、

行ないました。交流会は

は介護者同士の交流会を

二部構成で、第一部で

介護者が日頃のお悩みや

開催しました。介護に関 トフルケアセミナー)を

介護者同士の交流を図る

地域包括支援センター

体験を語り合う介護者の皆さん

るか?を考えること、自 れぞれ5枚ずつ、1人計 ことを知るなどを研修の 分の考えを他者と共有 し、価値観の違いがある 切にしている目標を記入 目に合わせて、大切なも 場所、緑色には大切にし 切な人、青色には好きな 分がふだん大切にしてい します。 ているもの、白色には大 る出来事、ピンクには大 そのカードを人生の節 黄色のカードには自

え合いました。

することができました。

早瀬

かったか?につ

いて、近

くの人の思いや

考えを伝

立案していく視点を大切 希望が持てる看護ケアを

にしたいとの思いを強く

を捨てることが最も難し 基準は何だったか? 何 感じたか? 捨てた時の

られた時、どん

なことを

疑似体験したことによ

を失うことへの恐怖感を

たくさんの大切なもの

り添い、傾聴し、不安の緩

患者さんのそばに寄

和につなげ、入院生活に

は?」の問いに、参加者 ができなか 最後まで捨 てること たもの

爆の体験談や実 セージに至るまでていね 相、メッ

水禁報告いケアハウス

ケアハウスちあき。桑原

福山雅治さん作の「クス けば50分超の時 くれた方もいて、 せていただきました。 ノキ」も弾き語りで歌わ いに伝えました していました。 この日限りで準備した 終始うなずい 最後に、 間が経過 て聞いて 気がつ

切れなかった部分、

会話をされるなど、思わ まるで自分事のようにつ かわいそうだねえ」と、 んとパネルをきっかけに ぶやかれました。隣で見 した。大火傷を負った山 つめていた別の入居者さ 人居者さんは、「この人、 に目を通してくださいま 仙二さんの写真を見た



アニストと クラウンによる クリスマスコンサ

心も体もリフレッシュ 日 時 12月4日(木)14:00~ 演

磯村明子さん (ピアニスト) クラウンもっきー (道化師)

参加費 無料 ケアハウスちあき 所 地域交流スペース 問い合わせ 千秋病院 **2**0586-77-0012

熙巳さんが嗚咽をもらし 実際に聞いてきた被爆者 ながら語った伯母や学友 ことができました。田中 の声をよりあつく伝える 正規の報告会では語り 特に 会話が広がったパネル展 パネルにも、皆さん熱心 音楽で癒され クラウンで笑って

のエピソードも交え、

生まれました。 ぬコミュニケーションも